



目次

生産現場情報：	出荷時期を考慮した多目的栽培を实践～農事組合法人きずな～	P 1～2
営農支援情報：	◆野菜◆夏から秋にかけての管理作業のポイント	P 3
ご 紹 介：	① J A こまち「小玉スイカ場内宣伝会」を開催	P 4
	② 「県北地区きゅうり出発式」を開催	P 5
	③ J A 大潟村「『潟たまねぎ』出発式」開催	P 6
	④ 「令和4年度斜面草刈機実演研修」開催	P 7
	⑤ 秋田県産「夏秋野菜・果実」のトップセールスを行いました！	P 8
	⑥ 夏ネギの「統一目揃い会」と「現地研修会」を開催	P 9
お 知 ら せ：	「キュウリビズ」キャンペーン実施中！	P10

出荷時期を考慮した多目的栽培を実践～農事組合法人きずな～

秋田県南部横手盆地の南西部十文字町にある「農事組合法人きずな」は「お互いに助け合い地域や農地を守りたい」との思いを持った35名が集まり、平成22年に設立しました。パイプハウスを利用した周年農業に取り組み、米やそば、野菜、果実など多品目を生産しています。

設 立：平成22年3月4日

代 表：代表理事 齋藤龍平

構成員：33戸（令和4年現在）

役 員：理事3名、監事2名

※平成27年度には、地域農業のリーダーとして優れた取組を実践している農業者へ贈られる「ふるさと秋田農林水産大賞」の「農林水産大臣賞」を受賞



代表理事：齋藤龍平さん

（令和3年4月30日時点）

経営面積：90ha（水田82.2ha、畑7.4ha、樹園地0.4ha）

栽培作目：水稻58ha、蕎麦30ha、大豆15ha、小麦10ha、枝豆4ha、ネギ1.5ha、スイカ1ha、トマト0.25ha、ピーマン0.2ha、葉菜類0.2ha、キャベツ1ha

作業受託：水稻特定作業受託7.0ha、乾燥・調整40ha、そば収穫・乾燥・調整・販売のべ120ha（夏50ha、秋70ha）大豆乾燥・調整200t

【経営の特徴】

「横手市は盆地になっているため山から豊富な水が流れ込み、寒暖差が大きいので美味しい農産物を作るにはうってつけの条件がそろっている」と齋藤さんが話すとおり、水稻、そば、野菜、果樹と多品目の栽培を盛んに行っています。水稻では、「あきたこまち」をはじめ、「淡雪こまち」や、まだ知名度が低いが美味しいと評判な「ほむすめ舞」や「萌えみのり」などの品種にも取り組んでいます。「農事組合法人きずな」の米はすべて秋田県特別栽培農畜産物認証米として販売し、安全安心な米としてインターネット販売などでも人気です。



また、経営リスクを分散しようと、複合部門を一作物に絞らない生産方針により、枝豆やネギ、ピーマン、スイカなど、冬期間にはコマツナ、菜花、ハウスネギなど多品目の栽培に取り組みながら、取引先の多様なニーズに対応するため、枝豆の前進出荷や中玉トマト販売など、品種や出荷時期を考慮した栽培体系を実践しています。

「農事組合法人きずな」では、2018年にすいか、ピーマン、米のJGAP認証を取得し、さらに2019年にはJGAP認証野菜9品目（ケール、菜花、サトイモ、ネギ、トマト、ブロッコリー、キャベツ、カリフラワー、枝豆）を追加取得しています。栽培技術の高さを強みに収穫される自慢の農産物は、全国の市場や卸業者、スーパー等に販売されています。



平成25年には法人施設倉庫に農産物直売所を併設して、採れたて新鮮な農産物や加工品なども販売しているほか、道の駅十文字、マックスバリュ十文字店、イオン御所野店に「きずなコーナー」を設置しています。



独自の販売ルートも活かした販売にも取り組んでいます。東京都内のイタリアンレストランと提携し、トマト（ロッソナポリタン）やカリフローレなどの要求にも対応し生産販売しています。



【今後に向けて】

J Aグループが進めている営農管理システムZ-GISをいち早く導入し、どこに何を作付けしているか誰が見てもわかるように色分けし、日々の記録をデータで管理しています。今後は、クラウドを使用することで、端末でデータを共有し、現地作業員のスマートフォンを利用し管理していきたいと話しています。齋藤さんは、篤農家の代表として横手市地域種苗支援センターでスイカ苗栽培の指導も担っていて、地域全体の農業振興のけん引役としても活躍しています。「地域農業の高齢化の受け皿として発展するためには、栽培技術もさることながら、販売力や美味しい農産物を作ることが必要と思っている」と話しています。「私たちが食べて美味しいと言える納得の商品だけを日本全国へ出荷している。私たちの農業は常に挑戦し続け、常に新しい発見をする。本当に美味しいと言える商品は、そのように試行錯誤して生まれると思っている。また、ひとつひとつの外見は同じだが、商品ができるまでの土作りから出荷までのドラマを消費者に届けたい」と話す齋藤さん。様々な取り組みによって地域の農業法人経営の模範として今日も、熱い思いで農業に汗を流しています。





◆野菜◆夏から秋にかけての管理作業のポイント

【秋冬どりキャベツ】

秋冬どりキャベツの定植は一番暑い高温乾燥時に行われるので生育抑制・遅延を招きやすくなります。灌水施設のあるところでは、夕方か朝の温度の低い時に積極的に灌水します。特にセル成型苗の場合は定植後に乾燥していると灌水の効果が高まります。第1回目の追肥は定植後15～20日頃に畝の肩に施し、第2回目は結球始め頃に畝間に施し軽く中耕・培土します。追肥量はチッソ、カリ成分で1回当たり4～5kg/10aとします。



【雨よけハウレンソウ】

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けを生じる場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を活用し地温の上昇を抑えます。また、土壌が乾燥すると、ほうれんそうの生育が停滞するため、播種前の灌水はムラなく十分に行います。発芽まで3～5日を要しま



すが、この間に種子のある深さまで過乾、過湿になると発芽不良になるので気温や土壌の乾燥状態に合わせた土壌水分管理が重要です。発芽直後から本葉4枚頃までは、立枯病や徒長を防ぐため基本的に灌水を行いませんが、砂質土壌や乾燥傾向の場合は若干量行います。収穫7～10日前ころからは、品質低下を防ぎ、葉色の向上と葉の厚みを持たせるために灌水は行いません。

【秋冬ネギ】

10月から収穫が始まる秋冬ネギは、出荷規格の軟白長が30cmになるので8月以降の土寄せが重要作業となります。畝を平らにする削り込みが終了後、20日前後の間隔で土寄せを行い、最後の土寄せは収穫予定の25～35日前に行います。収穫期間が長くなると葉鞘部の伸長が進み、葉鞘部が緑白部（ボケ）になり品質が低下するので、最終土寄せは大面積を一斉に行わず、日毎の収穫量に合わせて行います。最後の土寄せ以外は、葉身部と葉鞘部の分岐点を超えないように分岐点から10cm程まで行い、最後は葉身と葉鞘部の分岐点まで行います。



ＪＡこまち「小玉スイカ場内宣伝会」を開催



あきた園芸戦略対策協議会（事務局：ＪＡ全農あきた）は６月２７日、秋田市公設地方卸売市場でＪＡこまち産の小玉スイカの宣伝会を行いました。宣伝会では、ミス・フレッシュ秋田の二人が小玉スイカ「あきた夏丸チッチェ」の試食を市場関係者たちにすすめ、糖度と食感をＰＲしました。「あきた夏丸チッチェ」は秋田県オリジナル品種の大玉スイカ「あきた夏丸」の特徴を受け継いだ小玉スイカで、食べ応えのあるシャリ感と固めの果肉が特徴です。

試食した市場関係者は「皮の際まで甘くて食べ応えがあっておいしい」と話していました。ＪＡこま치의今年産のスイカ作付け面積は、大玉・小玉スイカ合わせて２４ヘクタールで、約６２トンの出荷を予定しています。



「県北地区きゅうり出発式」を開催

秋田県の県北地区青果物の重点品目であるキュウリの出荷が始まり、7月4日にＪＡかづの大曲集出荷所で出発式が行われ、ＪＡかづのやＪＡあきた北、ＪＡ秋田たかのす、秋田県、全農物流株式会社秋田支店、ＪＡ全農あきたの関係者などが出席しました。



式では、主催者挨拶として、県北地区園芸戦略対策協議会の菅原俊二副会長が「県北地区のキュウリは消費地より鮮度と味で高い評価をいただいている。生産や流通において厳しい環境下にあるが、キュウリの生産技術の向上と物流改革の推進、消費宣伝活動を強化し、生産者の所得向上にむけて地域一丸となって取り組む」と話しました。また、県産青果物と秋田犬がデザインされたトラックの前で、テープカットやミス・フレッシュ秋田からドライバーへの花束贈呈、ＪＡかづの阿部浩一常務理事の音頭によるがんばろう三唱を行ったあと、京浜市場へ出発するトラックを参加者全員で見送りました。このほか会場では、ミス・フレッシュ秋田がキュウリの試食をすすめ、参加者たちは鮮度や食感を確かめていました。県北地区のキュウリは１０月頃まで、首都圏を中心に２，２０１トの出荷を見込んでいます。



ＪＡかづの阿部浩一常務によるがんばろう三唱



キュウリの試食

ＪＡ大潟村「『潟たまねぎ』出発式」開催

7月12日、大潟村でブランド化を目指している「潟たまねぎ」の出発式が行われ、生産者やＪＡ、ＪＡ全農あきたの関係者などが出席しました。

出発式では、ミス・フレッシュ秋田からドライバーへ花束を贈呈し、約9トンのタマネギを載せて秋田市の卸売市場へ出発するトラックを見送りしました。



ＪＡ大潟村では米に代わる高収益作物として、5年前からタマネギの栽培拡大に取り組んでおり、今年の収穫量は昨年より400トンほど多い、約2,000トンを見込んでいます。

昨年夏の干ばつにより大産地の北海道で不作となった影響などで、全国的にタマネギの価格が高騰しています。ＪＡ大潟村の小林肇組合長は「価格は例年より少し高いと思うが、甘くておいしいタマネギをぜひ味わってほしい」と話しました。「潟たまねぎ」の出荷は8月上旬まで続く予定です。



ＪＡ大潟村 小林組合長の挨拶



出席者らは出発するトラックを見送りました

「令和4年度斜面草刈機実演研修」開催

7月6日と13日の2日間、秋田県および秋田県多面的機能支援協議会主催の「令和4年度斜面草刈機実演研修」が県内3地区（北秋田市・秋田市・横手市）で開催され、生産者や土地改良区の関係者など延べ116名が参加しました。研修では秋田マッカラー（株）と（株）やまびこの協力のもとリモコン自動草刈機や斜面草刈機の実演を行ったほか、刈払機の安全講習が開かれ、参加者たちは作業の時間短縮と安全性について確認しました。



県農林水産部農山村振興課の地域環境保全班長は「近年の草刈作業中の事故内容として斜面での発生率が高いことから、傾斜における作業が容易なりモコン草刈機やガイド式草刈機の実演を通じて安全に作業を進めてもらいたい。また、互助組織の高齢化や労働力不足も顕著になってきており、地域の環境保全の観点からも自動草刈機の活用などを検討してほしい」と話しました。JA全農あきたは今回の研修に共催しており、斜面草刈機の実演を通じて作業の省力化や時間短縮、事故予防の啓蒙をはかりました。



秋田県産「夏秋野菜・果実」のトップセールスを行いました！

7月14日にあきた園芸戦略対策協議会（事務局：JA全農あきた）は、横浜中央卸売市場で秋田県産「夏秋野菜・果実」のトップセールスを行い、県産青果物の取り扱いが最も多い同市場の仲卸業者や量販店の担当者に向けてPRしました。



当日は市場内に設置した特設会場で、これから出荷最盛期を迎えるキュウリやトマト、小玉スイカなどの8品目を展示したほか、トマトと椎茸の詰合せセットを配布しました。同協議会の小原正彦会長は「コロナ禍の影響で3年振りの開催となったが、県産の夏秋野菜と果実の生育は概ね順調で、品質・鮮度・食味も良好なので、どんどん売り込んでいただきたい」と話しました。また、様々な要因で生産コストが上昇していることに触れ、販売価格への反映を要請しました。



夏ネギの「統一目揃い会」と「現地研修会」を開催



7月20日、J A秋田なまはげ雄和支店と農事組合法人平沢ファームを会場に、夏ネギの「統一目揃い会」と「現地研修会」を開催し、J Aや県地域振興局の担当者など27名が参加しました。目揃い会では、全農青果センター（株）神奈川センターの蜂須賀力課長補佐が「猛暑により品目全体について入荷が少なく売り場の確保が難しい。県内で作付けを増やしていただき、売り場の確保につなげたい」と市場情勢を報告しました。その後、持ち込まれたサンプルをもとに収穫時における留意点などを参加者全員で確認しました。研修会では、県の担当者より「出荷最盛期の防除のタイミングを見極めてほしい」と今後の栽培管理のポイントについて指導がありました。

J A全農あきた園芸課は「秋田県産ネギは市場や量販店からも評価が高く数量の拡大を期待されている。引き続き、予約相対販売による安定した価格形成に取り組んでいきたい」と話しました。J A全農あきたは今後も「オール秋田」体制のもと、本県の最重点品目である長ネギの生産振興や、品質とブランド力の向上に努めてまいります。

暑い夏には #キュウリビズ

みずみずしいきゅうりの写真をInstagramで募集!

きゅうりは水分補給にぴったりで、夏バテ予防にもお役立ち。そんなきゅうりや、きゅうりを使った料理の写真大募集! 抽選で30名さまに東北6県の特産品をプレゼント!

投稿期間 9/6迄 正午まで

きゅうりの写真の投稿キャンペーン #キュウリビズ

Instagramに投稿して!

ただいま、きゅうり産地の
全農東北6県本部＜青森・岩手・秋田・山形・宮城・福島＞が合同で
「キュウリビズ」キャンペーンを開催中!

きゅうりやきゅうりを使った料理の写真を投稿された方の中から、
抽選で30名さまに東北各県の特産品をプレゼントします!

東北6県の特産品を各5名さま(合計30名さま)にプレゼント!

青森県	青森いきいきやさいセット	山形県	山形代表15缶ギフトセット
岩手県	きゅうり・りんご「紅いわて」	宮城県	お米の詰め合わせ
秋田県	トマトジュース「数むトマト」	福島県	愛情福島詰め合わせセット

※各県特産品は、各県本部が選定した商品になります。各県本部のホームページをご覧ください。

きゅうりの写真をInstagramに投稿して、東北の新鮮な特産品をGETしよう!

STEP 1 ハッシュタグ #キュウリビズ #フディーテーブル をつけて投稿してください

STEP 2 アップした写真のURLをキャンペーンページの投稿報告フォームからご報告お願いします。※おのりQRコードよりお申し込みします。

当選発表 事務局より投稿時のアドレスまでメールでご連絡いたします。

全農東北6県本部（青森・岩手・秋田・山形・宮城・福島）の合同企画、「キュウリビズ」キャンペーン実施中です！きゅうりやきゅうりを使った料理の写真をインスタグラムに投稿された方の中から、東北6県の特産品を各5名様（合計30名様）にプレゼントします！ぜひ、きゅうりの写真をインスタグラムに投稿して、東北の新鮮な特産品をGETしてください♪

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第30号 令和4年8月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462